

「ふるさと上越つどいの会」 を通じて感じたこと

Jネット事務局長 野澤 朗

妙高連山の木々も美しく紅葉し、そろそろ冬の気配が感じられる今日この頃となりました。Jネット会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今年を振り返るには少々気が早いのですが、この平成十七年は申し上げるまでもなく、元日をもって周辺十三町村と上越市が一つとなり、新しい上越市が誕生した大きな節目の年でありました。

合併により新たなスタートをきった上越市は、新しいまちの将来都市像「海に山に大地に なりわいと文化あふれる共生都市上越」の実現に向け、また市民一人ひとりが真のゆとりと豊かさを実感し、安全・安心に暮らせるよう、市民本位のまちづくりを進めているところです。このような中、Jネットといたしましても、新たな市の枠組を踏まえ、今後の活動のあり方を考えていく必要があると

感じておりますが、まずは旧十三町村にゆかりの皆様から、Jネットについて広く認知いただくことが大切ではないかとのことから、各区のふるさと会の皆様方にお声掛けさせていただきました。去る七月十六日、東京プリンスホテルを会場に、「ふるさと上越つどいの会」と題し、交流会を開催いたしました。

当日は、各区ゆかりの十七の団体から二十七人の皆様と、Jネットからは和久井会長はじめ理事の皆様方からご出席をいただき、各団体の自己紹介や意見交換を通じて交流を深めました。

各区ゆかりの会の皆様からは、この度の合併により、ふるさと町・村が上越市に編入され、一抹の淋しさを感じられていると同時に、これまで各町村役場を接点とした地元との密接なつながりがあつたものを、今後どのように活動を展

開していったら良いのかなどの不安の声をお聞きいたしました。

私が率直に感じましたのは、やはり各区ゆかりの皆様にとつて、ふるさと合併前の各町村でありつづけるのだからということです。実際に暮らしている住民の方々ですら、一体感が生まれてくるのに多くの時間を要すると思われる中で、地元を離れて暮らす皆様にとつては、なお更でありましょう。私自身、三年にわたり合併推進課長として合併を進める立場におりました経験から、その点は実感として十分理解しているところであります。会員の皆様も「どこで生まれましたか？」との問いには、今でも「上越市」とではなく「高田」や「直江津」とお答えになるのではないのでしょうか。人々の心の拠り所とはそういうものであると思っております。

私どもといたしましては、旧町村を心の拠り所としたふるさと会の皆様からは、これまで通りそれぞれの活動を続けていただく中で、それらふるさと会の皆様との交流会や事業の共同開催などを通じて、郷人会とは違うJネットのより幅広い活動の魅力をお伝えしながら、Jネットへの加入をお勧めしてまいりたいと思っております。

いずれにいたしましても、上越市を遠く離れて生活されている皆様の拠り所と



して、Jネットが今後も未永く愛されるよう、努力してまいります所存であります。会員の皆様におかれては、ふるさと上越の応援団として、今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、この機会をお借りして、改めてお願い申し上げます。

ふるさと上越つどいの会 意見交換の概要

● 関東八千浦会 笠原会長

八千浦会でJネットの会員になつて居るのは五人、新潟県人会に参加している五人で郷人会の会長は理事になる義務があり、一万円取られる。県人会の会員

は会費を二千元か三千元取られる。八千浦会の会費二千元。Ｊネットに加わったらどうかと会のたびに話をするが、会費の負担が大変という問題がある。

●松川副会長

Ｊネットに入って単に懐かしがっているだけでいいのか、会に入ったら一つのメリットがあるのではないかとということ、ふるさと上越の応援団であることを話してきている。今度十四市町村一緒になったが片方は米山の見える人、もう片方は妙高が見える人、みんなが一つになつてきている。たいがい中学・高校の校歌にも米山か妙高が必ず歌われている。同じ歌を歌っている人たちが、けんかして応援団になれるのか、というのが。応援団になれたらその中のメリットをどうやって感じているのかということだが、五月の総会に一六の酒蔵があつて酒蔵から特区の酒をとって売込みをした。懐かしがりながらも、たくさん買って、お酒だけではなく味噌漬けなど上越の特産を買つてやるのが一番の応援団。今、考えていることは、上越のお米・味噌を買うときに、送料がかかつてしまう。上越で買うのと同じ値段で買えないか検討している。会に入るによつて、送料の負担を軽くしながら上越で買うのと同じ値段で手に入る方法を考へている。そうい

うことが、会員になることによるメリットであり、応援団にあたるだろうと話している。

●和久井会長

Ｊネットから上越市のいろんな委員に出席しているが、最近農業審議会に三人参加している。先週十三町村のいろんなところをみてきたが、牧村に行つたら大変おもしろいので出てもらつた。

●野澤事務局長

今、牧のとぶろくは新しく一人増え、特区二人になった。安塚の方も一名おられ正式に免許を取られた方は上越で三名。全国でも珍しい。農業関係で蒲川原区では、株式会社が農業に進出されている。特区を有効に使っている。

また、先の大雨の関係で上越も若干被害があつた。初めて合併した後の自然災害だったが、吉川区の中で吉川から行ってた道が通れずに大島村から入っている地区が一つある。消防も全市になったので吉川区の災害地に三和区をはじめ周辺の区の消防団の方が駆けつけ、合併の一つの効果がでたと思つている。

●東京牧村会 岡会長

有楽町からおりて銀座の方へいくと交通会館がある。地方のいろんな宣伝して

いる。上越なら上越の宣伝をしたらどうか。交通会館もいろんな人が集まる。

●三和中学同窓会東京支部 渡辺支部長

三和村は全国三和祭りというようなことで、茨城県の三和町、四国、九州とか一年一回持ち回りでやった。村のかたも村をあげて三和祭りということでは何年か一回東京へマイクロスパスで集り土産を持ってきてもらい交流できた。学校が二校から一校になったので同窓意識を持つということをやっているが、高齢化が問題である。二年に一回ふるさとでの雪中梅を出してジャンケン大会を企画している。中学校の同窓会だが、本部がなかなか活動できなく、東京支部が積極的にやっている。

若手の会員を増やすため、仲間同士では三二同級会をやっているが、それを支部の方へつなげていかななくてはいけないと思つている。Ｊネットも新しい上越市ということであれば、とにかく上越の物産を集めて、人を集めたいのはいか。Ｊネットには今後とも協力していきたい。

●東京柿崎会 北井会長

この間、ふるさと物産展をやつて私も参加したが、率直にいつて地元の熱意が伝わらなくカッカリした。田舎に帰つて

も、はさがけたお米は私たちにわけてくれない。自分達だけで食べて、私たちに売らない。こういうのを玉玉にして値段は少々高くても特徴をだすようなことをネットワークとしてやつたらどうか。

●和久井会長

私は、今上越の農業審議会に入っているが、審議会のメンバーですら農業のここからの危機について理解していない。ＷＴＯで関税を半分に引き下げるといつてる。今、四〇〇％の関税が二〇〇％のなかで上越の農家は全部駄目になつてしまふ。もつと言えば二〇〇％だつてあぶない。もつと真剣に農業に取り組んで欲しい。その一方で上越のお米のおいしさは先ほどいわれたが、上越の人はあまり理解していない。Ｊネットでは棚田オーナー制度で桑取と中ノ俣で会員募集して年間三万円で一反歩借りて田植え、草取り、稲刈りに参加している。そのときに出来たはさかけ米を送つてもらふ。これはすこおいしい。もつと宣伝していきたい。

●野澤事務局長

先ほど、蒲川原で「平成の大地」の方が農業進出したと話したが、実は、はさがけ米を主にやっている。棚田の条件の悪い田んぼを全部買ってやっている。高

級品を扱うマーケットと契約をして、しかし卸さないやり方をやっている。その中で話をする、農業がうごかないといふのは誤解である。

●関東八千浦会 笠原会長

八千浦協議会の中に美しいまちづくりの会に渡辺さんを任命し、東京で密接な連携をとって八千浦地区なら八千浦地区でどんなことを望んでいるのか、どんな協議をしていくのか、希望に取り込んでいかななくてはいけない。直江津は閑古鳥が鳴いている。さびしい。上越市は雁木通りなら雁木通りでどうやって宣伝していくか、観光都市として考えて欲しい。もう一つ付け加えるなら上越ネットワークって名前が悪い。ふるさと上越の会とかもう少し具体的に。上越ネットワークってなんだということになる。名前について一考する余地がある。

●東京安塚会 佐藤会長

私の生まれたところは、キューツピットパレーの下である。私の安塚町は、矢野町長が仕切ってきた。町長はけっこうアイディアマンで名前も知れている。今度議員として議会に入られたが、こういう人がいるので市議会も変わってくるのではない。田舎はいろいろ売れる材料たくさんある。今まで安塚町から物産を

もってきてもらったが、今度上越の宣伝をしていかななくてはならない。個人で上越ネットワークに入るには、金額も大変だから会として入るといふのはどうだろうか。

●関東八千浦会 笠原会長

会に入ると八千浦会で五名入っているのが一名になってしまふ。これは個人で参加するべきである。上越市の人は上越は日本中知れわたっているように思っているが、うちの女房は上越という時々間違える。新潟の方が上越と思っている。上越市の方が下越という。

もう少し上越を宣伝しなくてはいい。宣伝するための材料は何なのか。もう少し検討していただきたい。

●松川副会長

上越は木がいっぱいあると思っているが、高田、直江津は窓から見ると緑がない。東京の方が緑のまちなみである。みなさんの自分の屋敷の周りにはある程度緑があるかもしれないが、例えば大島線をずーっといっても並木はない。東京だと主な街道は並木道になっている。昔は多分、はさきがあつてはさきの下で休んだこともあつたらうが、今はない。そういうところを自分達の緑豊かなまちと比べていっている。四十年前に旧十八号

線が出来たが、いまだに並木道になっていない。このことを言うと、並木に虫がついたり管理が大変とか、出来ない理由だけを並べてくる。

板倉の「光が原牧場」、こんなところに大牧場があることをはじめて知った。どうやってPRするのか。また、先日、合併して二十一万都市になったが、例えば、名立の人は板倉の「光が原」のこを知を知らないと思う。同様に私たちが「ネット」として名立に行つて岩戸野をはじめて知った。少なくとも市内の人たちは、自分達のとこにこんな財産があることを良く教えて、そのことからはじめて全国に発信していくことが必要ではないか。

それから、自分達のふるさとの産品を電話一本かけて送料をかけずに買えたら、隣近所に宣伝してよかつたらとてやるという、こんなうまい仕組みができたらいと思ふ。

●関東八千浦会 笠原会長

理想は高くとはあまり言いたくないが、Jネットの会は理想を高く持たないと集まつてこないと思う。ただ、親睦深める、味噌売、酒売るでは入らないと思う。スーパードに行けば、雪中梅も売っている。新潟の味噌も売っている。今、時代が求めているのは、本当の意味でのふるさととはどういうものか、見直されている。そ

の点に注目してわれわれは、故郷とのつながりを強めていかなければならない。美しいまちづくりを八千浦でつくっているが、市では多少指導できると思うが、住民一人ひとりが協力してまちをきれいにしていく気運がない。この辺を強く要望して、われわれはうつくしいふるさとづくりに協力する高い理想をもつて進みたい。

●野澤事務局長

大変良い話をありがとうございます。

この機会にどんだんを意見お願ひします。合併直後十三区の皆様方と上越市とどうやって行こうか今一番大事なところである。こんなときに外から上越市を見ていただいている皆さんから貴重なご意見を是非たくさんお寄せいただきたい。

●東京大潟会 柳沢会長

この間柿崎の「ハマナス」で小学校の同級会をやりました。大雨の後だったせいか砂浜が汚く残念だった。海水浴場は朝、三時四時にはすでに長野の人で駐車場がいっぱいになっていて、地元の人が入れなく困っていた。これも考えていかなければいけないと思います。

